教室掲示

H27.5.25

生徒指導部

ちょっといい話

“一人一人が学校を創る”

先週の木曜日、野崎高校の校長先生あてに１本の電話がかかってきました。校長先生が出張で不在だったので、たまたま以前からの知り合いだった生徒指導室の先生が電話に出ることになりました。

電話の相手は前日の水曜日に進路指導室に来られた大学の担当者の方でした。学校で用事を済ませた後、野崎駅まで戻る道が分からず困ってしまい、近くにいた野崎高校の生徒に道を尋ねたそうです。

その女子生徒は丁寧に駅まで道案内をしただけでなく、「荷物を持ちましょうか？」とその方を心配するなど、非常に気持ちの良い対応だったようです。そして学校宛に感謝の電話がかかってきたのです。

金曜日にも学校宛に嬉しい電話がかかってきました。小学１年生の女の子のお母さんからの電話でした。

東大阪の吉田駅近くの公園でケガをして泣いている女の子を野崎高生数名が家まで送り届けてあげたようでした。

お母さんは女の子のケガに動転して、生徒たちの名前を聞くことができなかったようですが、野崎高校生ということだけは聞けたようで感謝の電話がかかってきたのです。

まず、先生たちはこの生徒たちのことを誇りに思っています。この生徒たち以外にも、困っている人を助ける優しい心と一声かける勇気を持った生徒が野崎高校にはたくさんいると思います。

普段、外からの苦情や迷惑行為などに関して注意する文章を書いている時と同じく、先生が今回思ったことがあります。



**学校を創っているのは野崎高校生、一人一人だ**ということです。

一人が良い行いをすれば、学校全体が周囲から認められ、感謝され、憧れてもらえる存在になります。

逆に一人の迷惑行為が、学校全体の信用を失わせることにもなります。

「人助け」は感謝してもらうためでも、ましてや学校の評判を上げるためにするものでもありません。でもちょっといい話だと思いませんか？先生はこの生徒たちに「ありがとう」と言いたいと思います。